

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3170100923
法人名	特定・特別医療法人 明和会医療福祉センター
事業所名	グループホーム さくらはうす
訪問調査日	平成19年 8月31日
評価確定日	平成19年 9月18日
評価機関名	特定非営利活動法人 鳥取社会福祉評価機構

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3170100923		
法人名	特定・特別医療法人 明和会医療福祉センター		
事業所名	グループホーム さくらはうす		
所在地 (電話番号)	鳥取県鳥取市覚寺180 (電話)0857-22-1151		
評価機関名	特定非営利活動法人 鳥取社会福祉評価機構		
所在地	鳥取県鳥取市湖山町北2丁目116番地		
訪問調査日	平成19年8月31日	評価確定日	平成19年9月18日

【情報提供票より】(平成19年 8月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年 3月30日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 0人, 常勤換算	7.2人

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨耐火被覆 造り	
	4階建ての	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	75歳	最高	93歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ウエルフェア北園渡辺病院	ひろ歯科クリニック	葉狩皮膚科クリニ
---------	--------------	-----------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鳥取市郊外の田園風景の広がる中に立地する6階建ての医療複合施設の中に二つのグループホームが隣接する中の一つである。管理者は同法人の他のグループホームから着任して間もないが、認知症介護経験は11年以上と豊富で他の職員もすべて常勤職員であり、経験も平均約5年と豊富である利用者はマンションにいるかのような建物の雰囲気の中でゆったりとした共同生活を過ごしており、その中で一人ひとりの役割りや生きがいを見つける介護に取り組んでいる。職員研修も行われており、職員のレベルは高い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価での要改善事項としての指摘はなかったが、自己評価での要改善事項は14項目有ったのでそれに対する改善計画はすべて立案され、優先順位も決められ改善されている。又その改善内容の評価も行なわれ日々の業務に活かされている</p>
	<p>② 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員一人ひとりが自己評価すべての項目に取り組んで、各項目の内容を理解しながら作成されており、その後持ち寄ってスタッフミーティングで検討されている。職員は評価の意義や大切さを理解しており、前向きに取り組む姿勢がレベルアップに繋がっている</p>
重点項目	<p>③ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域医療、福祉の中心的な役割を担っている機関ならではの開かれた運営推進会議となっている。同法人内の三グループホーム合同で行なわれるため参加者も30人以上と多く、地域の方やご家族、行政職員、市議員等多方面からの参加があり、又グループホームの職員も多数参加しており、参加者も現場の状況を身近に知ることが出来る体制があり、参加者が共に学び共に知ることが出来る運営推進会議となっている。</p>
重点項目	<p>④ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月「さくらだより」を発行し、利用者一人ひとりの状況を担当者与管理者が共にコメントを記入している。生活保護者の受入れもあり、ご家族の面会回数にはばらつきが見られるがご家族の訪問の記録や話の内容、意見交換等は情報交換書に書き留められ職員間の情報の共有は図られ、日々の介護に取り入れられる体制になっている。</p>
重点項目	<p>⑤ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元自治会には加入しており、地域主催の敬老会や公民館まつりに参加したり、又施設側主催の納涼祭や文化祭に地域の方が多く参加している。地元の幼稚園との二ヶ月に一回の定期的な来訪もあり、幼稚園児と利用者との交流を図り楽しんでいる。地元の方からの自家製野菜の差し入れもあり、地域との交流は図られている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に地域住民との交流を入れて、積極的に公民館まつり等の地域主催行事に参加している。施設としては家庭的環境の中で安心と尊厳のある暮らしを理念とし、法人とは別の理念を作り上げており、管理者はスタッフ会議やミーティングで理念を具体的に話している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やスタッフルームの目に付きやすいところに掲示して、日々目にする事で理念を意識するようにして、理念から外れていないかをスタッフ会議等で話し合っている。利用者と信頼関係を築くために人生の先輩としての尊厳を持って支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	覚寺地区町内会に加入しており、地元主催の敬老会や公民館祭りに参加したり、施設主宰の納涼祭や文化祭に地域の方が多数参加されたりと相互の交流はすすんでいる。2ヶ月に1回は地元の幼稚園児が来訪し、折り紙や歌や遊戯をして楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は全職員が全項目を作成し、その後スタッフ会議の場で全職員で検討している。管理者、職員共に外部評価、自己評価の意義は理解しており、前回の自己評価結果に対する改善項目も改善計画を立案して実施され、その評価も行なわれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は同法人三施設合同で行なうため、前半はグループホーム職員に現場の状況を説明及び報告してもらい、後半は小グループに分かれて地元の情報を集めたり、民生委員の話を聞いたりして意見交換をしている。評価結果の閲覧は自由に出来る。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広報誌を年四回発行しているのでその都度届けたり、利用者の入退居の都度の報告や事故が発生した場合の報告等でコミュニケーションを図っている。又鳥取市の相談窓口を記載して行政と一緒に考える体制作りも行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「さくらだより」を発行して担当者及び管理者双方がコメントを記載しており、日々の様子がかなり詳細に書かれている。金銭出納の記録もあわせて発送している。利用者の状況が変化した場合にはすぐにご家族に連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年に二回開催しており、一緒に食事をしたり、行事に参加してコミュニケーションを図り、より親しくなることで意見や相談がしやすい雰囲気を作っている。ご家族の来訪時やケアプランの作成時にご家族の意見を聞くようにしており、ご家族の意見は管理者にすべて伝えるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームとしての定期異動は行なっていない。が行なう場合には管理者は二ヶ月、職員は一ヶ月の期間を取って利用者のダメージを防ぐために、利用者のその日の状況を見ながら一人ひとりに繰り返し丁寧に説明している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての職員研修計画に基づいて研修を行っている。新人研修、ミドルマネージャー研修等職員の経験年齢別の研修になっており、勤務体制も研修受講、資格取得を優先した勤務体制にしている。研修後は伝達講習や復命書の回覧で共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の協会に加入しており、一年間に二施設との相互研修や事例検討会に参加し、他の施設職員との意見交換や交流が図られている。又鳥取県内にとどまらず全国的な動きにも目を向けた情報の取得を行いサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	4月からショートステイ体制を取り、本人やご家族に安心や納得をした上での入所が出来るように取り組んでいる。現在は病院からの入居が多いため、ソーシャルワーカーと連携を取り、施設見学や利用者の得意なことを中心としてマンツーマン体制で馴染みの関係を作っている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の生活の中で利用者ごとの役割がほぼ決まっており、小物の作成等の個性や趣味を活かした支援をしている。職員は利用者を目上の人と位置づけており、特に調理方法では教えられることも多くお互い様という気持ちで係り、互いに支えあう支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の顔色や表情に日々気を配り、本人の体調の変化や気づいた事をフォーカス記録に残しており、職員間でその情報は共有されている。センター方式でアセスメントを行い、本人の残存能力や可能性を引き出す事を大切に支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の来訪時に聞いた要望や本人の希望は情報交換書に書き留められており、それぞれの担当者が起案して月一回の会議で話し合わせ、医師や看護師の意見も取り入れて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	平常時でも毎月の見直しが行われており、担当者会議は主治医の意見を取り入れ、担当者、ご家族、ソーシャルワーカーの参加もあり、複数のスタッフの意見や本人やご家族の要望が取り入れられ、本人の役割が取り入れられて予防的な内容になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接している病院の機能を活かし、医師、看護師、ソーシャルワーカー、PT、OT、栄養士等それぞれの専門的なアドバイスを受けながら支援している。成年後見制度の利用や入所以前からのなじみの習慣を引き続き取り入れるなど工夫をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医師が主に主治医となり定期、臨時の受診が行なわれている。皮膚科や眼科、歯科への受診は主治医に紹介状を書いていただき、ご家族が付き添うことが原則だが無理な場合は職員が柔軟に対応し、ご家族への報告も行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについてはグループホームだけではなく法人全体で取り組む方針を入所時に文書で説明している。重度化した場合はその都度医師やソーシャルワーカーにアドバイスをいただきながらご家族と話し合って納得していただいている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護に関する研修は年一回実施しており、職員からは個人情報保護同意書も提出させ、日々の言葉かけもさりげなく小声で声かけしている。PCはパスワード管理がされデータの持ち出しは禁止され、不要書類はシュレッダー処理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人やご家族から生活環境や生活暦を聞いて一人ひとりの希望に沿った生活が出来るように買い物、散歩等その時々々の本人の意向を聞いたり、様子を観察しながらミーティングや日々の会話の中で職員同士で話し合って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に買い物に行き、調理、片付けまで職員が共に付き添い一緒に行っている。一人ひとりの好みや季節感を大切にメニューになるように配慮している。外食も取り入れたり、刻み食やおかゆ等利用者のその時の状況にあわせて対応している。	○	利用者の多くは介助なしで食事をしているが、食事時に職員は一人しかテーブルについていないので、職員シフトにも関係するが是非出勤者全員で同じテーブルで食事を一緒にしてほしい。
		○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望に合わせて午前午後とも対応している。入浴を拒む人には「院長先生からの指示」というような言葉や入浴後の飲物等を利用してなるべく入浴していただけるように支援している。ドライシャンプー等も利用して清潔を保っている。		
		○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去の生活環境や生活歴は入所時や日々の接触の中で聞いており、ケアプランに盛り込んで日々の生活を楽しめるように支援している。縫い物、畑仕事、塗り絵等のそれぞれの得意分野を活かして本人が出来ることを職員が見守りながら支援している。		
		○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物には一日おきに出かけており、散歩には日常的に出かけている。畑にも出ており、歩行困難な利用者には車イスを利用して他の入居者と一緒に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
		○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけない暮らしを実践している。職員も鍵をかけないことの大切さを理解しており、見守りを絶えず行い近隣の病院関係者や地元自治会や警察にも協力を依頼して鍵をかけない暮らしをしている。		
		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害時の対応マニュアルは整備され防災計画に基づき、自衛消防隊も法人と合同で整備されており、年に二回は避難訓練を実施している。食料や災害時の備品は同一施設内の法人で準備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は時間ごとに個別に記録されており、献立表にはカロリー計算も記載されている。定期的に献立表を見せて栄養士からアドバイスをもらっている。水分不足の場合はゼリーやスポーツ飲料で補い一人ひとりの摂取量に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは広く窓も大きく取っており、かなり明るく開放的な雰囲気となっている。対面式のキッチンになっており、利用者の顔や動きを見て会話をしながら調理している。季節の花や手作りの品を飾り、換気や温湿度調整も管理されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく風とおしが良く清潔に保たれている。ご家族と相談して仏壇や使い慣れたタンス、ラジオ、家族の写真等が持ち込まれ利用者にとってなじみの空間となっている。カーテンを取り付けたりしてプライバシーにも配慮されている。		